

March

# コロニーやまがた

2024.3

No.20



村山障害者就業・生活支援センターふうれ 在職者の集い 山寺散策

## INDEX

- 02 年頭挨拶／  
コロニー協会後援会解散報告
- 03 各福祉サービス事業活動紹介
- 05 障がい者虐待防止内部研修／  
災害と人権について考える
- 06 コロニーまつり 桜田南・天童／  
辰年生まれ今年の抱負
- 08 仲間たちの声／寄付寄贈紹介・御礼／  
編集後記

# COLONY YAMAGATA

## 年頭の挨拶



理事長 須貝 壽一

新年を皆さまと共に迎えられましたことを嬉しく思います。

さて、新型コロナウイルス禍は第5類感染症となりましたが、終息した訳ではありません。「ウイズコロナ」という社会は、私たちの命や事業の安全を保障するものではなく、コロナのリスクと「共に生きる」時代であることを示すものと考えます。

「共に」という言葉は、私たちコロナには身近で、重要なワードです。生きるために、結核から回復した当事者たちが共同し築いた職場がコロナです。一人ひとりの力は脆弱で共同することでしか成し得ない挑戦でしたが、やがて障害者と障害のない者が一緒に働く職場になりました。この「共に働く」こそコロナの歴史であり、価値の証明だと思っています。

しかし現在、コロナを障害福祉サービス事業所と捉え、支援者という自覚で働く職員が大半となりました。仲間を「利用者」と呼ぶことも、同じ身分や対等な立場で働いた経験のない者にとっては無理のない話です。

現在の国際基準である障害者権利

条約は、差別や区別のないインクルーシブ社会の実現を求めています。「共に」は、常に身近に存在し一緒に活動することがごく自然である様を表した言葉です。現行制度は、福祉的支援や記録事務等に対する要求が年々緻密且つ厳格化され、現代の職員は仲間たちとだけでなく、これら法令順守という負担と共に働いています。このような福祉から、改めて従前のコロナらしい働き方を見直し、仲間として、同僚として共に働き、同じ働く権利の主体者同志が協力し、苦楽を共にする職場で、「完全参加と平等」の価値を実感できる福祉の再構築も、現代に求められている新たな挑戦と言えるかもしれません。

結びに、令和6年が皆さまにとつて、素晴らしき年になるよう祈念し、挨拶とさせていただきます。

## コロナ協会後援会解散報告

長年のご支援を賜りありがとうございました

47年の長きに渡り、当法人を支援してくださった社会福祉法人山形県コロナ協会後援会は、令和4年度末を以つて解散いたしました。

当法人の起源は、障害当事者たちが共同して働く場を切り拓いたことに始まったことから、その過程には多くの困難がありました。特に印刷事業の経営難をはじめ、措置費時代のコロナセンター及び補助金事業の福祉工場の2施設体制時代は、制度上内部留保金を持たず、法人の将来を思い描くことさえ難しい時代がありました。さらに平成18年度には、民間と競争の下、質の高い福祉サービスの提供を求められるなど、私たちは新しい時代への適応を迫られてきました。

そんな変化に富んだ時代の中後援会は、昭和51年に苦しかった印刷事業の応援の形で発足してから、時代の変遷に寄り添い、平成19年就労サポートセンター（新築）、平成22年コロナセンター（移転）、平成31年天童サポートセンター（新築）等々、現

在当法人が運営する全拠点施設の建設の他、地域に開かれた新たな福祉法人や福祉施設イメージの構築面からも多大なご指導とご支援をいただきました。おかげさまで、現在当法人は県内随一の就労支援事業所等として地域に認められ選択されるまでに成長できました。改めて、後援会の個人会員の皆様、団体会員皆様から頂戴したご厚情に深く感謝申し上げます。また解散時にいただいた寄付金約72万円は、法人を担う職員たちの専門性や資質向上等に広く活用させていただきます。ありがとうございました。

（常務理事 鈴木 宏）



各事業所の活動紹介

就労継続支援A型

年頭所感

A どこで働いているの？  
 B コロニーです  
 A ふーん あそこは○○○○○。  
 B はあなた それぞれが思い当たる言葉があると思います。

福祉工場だけであった、この地が色々な部門が増え職員の名前と顔が致しなくなりました。職員の数の多さに福祉が職員の草刈り場になったような気がします。

一方、失われた30年は利用者も例外ではなく、利用者負担など直に制度にかかる経費を目の当たりにすることが多くなり、現状維持を納得させられる場面が多くなりました。生活を守ることに必死です。私も60を超えまた新たな業務に携わることになり複雑な気持ちです。この業務が軌道に乗り、後輩たちの未来の生活の一助となり、○○に良い言葉が入る様な未来への元年になればよいと思っています。

(佐藤)

放課後等デイサービス(山形)

シード山形では、職業準備訓練として様々な活動に取り組んでいます。部品組立・分解作業、仕分け作業、コミュニケーショントレーニング等のほかに、長期休暇には一般企業や就労継続支援A型・B型の事業所見学、作業体験として上山市役所清掃や就労移行、B型の体験を行っています。また、卒業生に就職に向けて取り組んだことなどを聞く会や、バスの利用教室も行いました。山交バス株式会社様にご協力いただき、バスの乗車中のルールや乗り降りの方法、運賃の支払い方法などを学習しました。将来の目標や自立に向けて、今後も保護者の皆様と一緒にお手伝いをさせていただきたいと思っております。

(鈴木)



児童発達支援

事業所開放日  
『子育てひろば』開催！

山形県内には無料で遊べる児童施設が点在していますが、「子どもを連れて行くのが大変」と言う声を聞くことが増えました。それならば、地域貢献も含めてホールを一般に開放してみよう！と今年度は3回開催しました。初回は閑古鳥が泣いていましたが、徐々に地域のご家族や園の紹介で来所される方が増えて賑わうようになりました。「遊びたい所で遊べない」根本的な解決には至っていないかもしれませんが、地域で遊ぶ選択肢の一つになるよう、機会を重ねていきたいと思っております。

(細谷)



放課後等デイサービス(天童)

3年ぶり開催の芋煮会

令和5年11月11日(土)に3年ぶりに「芋煮会」を開催しました。芋煮をおいしく作るために、子どもたちと一緒にネギを切ったり、キノコをほぐしたりと分担し調理しました。

出来上がった芋煮は、日ごろお世話になっている地域の方々、参加児童のご家族を招待しみんなで楽しくおいしく頂きました。子どもたちには日ごろの活動で学んでいることを発揮してもらい、また、地域の方々へ芋煮の配膳のお手伝いをしてもらい交流を図りました。

参加された皆さんが、おなか一杯になるまで芋煮を味わい楽しみました。今回の芋煮会ではシード天童が地域の方々に見守られていることを実感しました。これからもこの関係を大切にしていきたいと思っております。

(大山)



就労継続支援B型

「少しづつイベントを再開  
充実した生活に向けて」

コロナウイルス感染症が5類に見直され、コロナセンターでも少しづつイベントを再開し働く皆さんの心身のリフレッシュはもちろん、仕事や生活に役立つスキルを身につけられる内容を盛り込んだ経験の機会を提供しています。

今年度はシアターショー・日帰り研修旅行・コロナ祭り・クリスマス会等を行いました。公共施設の利用の仕方、コロナ禍の食事方法、ごみの分別等、こういう機会だからこそ皆で学び社会生活力の向上につなげていきます。

働く喜びや充実した生活につながるよう日々の仕事だけでなく、今後も様々な機会を考えたがら一緒に活動していきたいと思えます。

(阿部)



共同生活援助

朝食と見送り

南館Aホームで、4名の利用者さんの支援をしています。

A型、B型、就労移行で仕事や訓練に励み、目標に向かって生活しているみなさんです。

私の仕事は、朝の送り出しまで(6:30~9:00)と、仕事や訓練を終えて帰ってきた利用者さんの対応(15:30~20:00)です。

特に大切に思っている事は、「朝食と送り出し」です。

体調を確認し、声掛けし、朝食を配膳します。

「美味しい」と言ってくれ、残さず食べてくれると、ホッとします。

食事は元気のバロメーターですから!!  
そして玄関から見送る時には、「いってらっしゃい」と明るく声掛けしています。

今日も良い1日になるようお願いながら!!

(姉崎)



就労移行支援・定着支援

安心して働き続けられるように

就労移行支援事業所 山形コロナ就労サポートセンターの利用期間は2年間です。高校を卒業してすぐに利用する方、B型事業所で力をつけて、ステップアップのために利用する方、お勤めされた経験のある方など、利用のタイミングは様々です。一般就労後6か月間、何か心配事があったときは対応できるようにフォローアップもしています。その後は就労定着支援という福祉サービスが利用できます。(最長3年間)月に1度のご本人との面談を中心に、必要に応じて職場の方とコミュニケーションを図りながら安定して長く働き続けられることを目指してサポートいたします。見学や体験はお気軽にどうぞ。

(塚野)



Skill up Training

ゼンクロススキルアップ研修に参加して

鈴木 健太  
A型事業部生産課

研修内容は、「ICF(国際生活機能分類)の活用等」を学ぶことでした。

ICFは、人が生きること全体の姿を生活機能と捉え、本人の残された能力の増大を図るといったもの。生活機能には、食べる、寝る、歩くなどの基本的な動作だけではなく、学校や職場などの社会的な環境や人間関係なども含まれます。その人の能力や強みを見つけ、引き出し、活かす手段の一つです。

いくつかの事例をもとに研修が進みましたが、その中で印象に残ったのは「様々な職種・分野・視点でICFを見ることで、共通することは、『その人を知る』ということです。その人を知らないとは本当の支援にはつながらないことを学びました。また、リアルタイムに他の受講者の意見等が電子ホワイトボードで見ることができ、参考になりました。このことを今後の支援の中にもどのように活かしていけるかを考えていきたいと思えます。

## 令和5年度 虐待防止職員研修

令和6年1月13日(土)に第3回職員研修として、「令和5年度 虐待防止職員研修」を開催しました。

今回は厚生労働省の公開している虐待防止法についての動画を全員で視聴し、その後グループに分かれて虐待につながるグレーゾーンの「小さな出来事」についての事例検討を行いました。県内では虐待の事例が頻発していることなどを踏まえ、自分の所属する事業所内や自分の行っている支援には虐待につながるリスクは無いかな、について意見を交換し合う内容で研修を行いました。

グループは法人内各事業所に所属する職員がそれぞれの立場や垣根を越えて編成され、それぞれの意見を交換し合う形をとりました。日ごろの支援の中ではなかなか話す機会のない職員同士が意見交換をすることで、自分の支援について振り返り、他事業所の支援の状況などについて話を聞くことで視野を広げ、支援の中で起こりうる虐待リスクについて気付



いていく大変良い機会となりました。研修を通して、利用される方一人一人に対しての権利擁護の視点、各種法令の遵守、支援スキルの向上など虐待を起こさない、虐待をしないという強い決意を新たにしました。

日々の業務の中で対応の難しいケースや、職員として気持ちが悪くなる場面もあると思います。私たちの周りには多くの仲間がいて話をする場があること、一人で抱え込まずに何でも話ができる風通しの良い職場環境を整えていくことの大切さも学びました。

(佐藤幸樹)

### シリーズ 人権を考える

## 災害と人権について考える

共同生活援助事業 大沼 久美

NO.2

令和6年元旦、能登半島沖で大きな地震が発生しました。犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々が少しでも安心した生活を取り戻されますようお祈り申し上げます。

その日、山形市は大きな揺れに襲われず影響はありませんでしたが、グループホームの入居者が心配で、すぐに各ホームを巡回しました。皆、口々に怖かったと話しながらも「大丈夫」を確認し安堵して帰路についたものの、帰りながら「もし倒壊や火災が起きていたら…」と不安と焦りが生じました。

平成23年の東日本大震災では、避難所に障害のある人が見かけられなくなり「障害者が消えた」と当時のことが語り継がれています。全体の死亡率と比較して障害者の死亡率は2倍。後に、障害のある人やその家族は命を守るための情報や支援を平

等に受けられなかった事例が多くあったことが分かりました。

今回の地震でも発生直後の避難所にて障害への理解が得られず、自宅に戻ることを余儀なくされた方や車中泊をしている方の状況が報じられている中で、地域の支援者を通じて避難所に避難できていない障害のある人とその家族の安否や生活状況の把握を進めている、との動きも報じられています。災害関連死を防ぐため、声を上げられない人も含めて誰一人として取り残さないように、といった意識は13年前から進歩しているように見えます。私たち山形はどうでしょうか。

地域の人権意識や支えあいネットワークの実態は非常時ほど顕在化します。日頃から、多様な一人ひとりの存在を切り捨てない地域づくりを進めることが必要だと改めて感じています。



天童事業所

# コロニー まつり

2023年(令和5年)

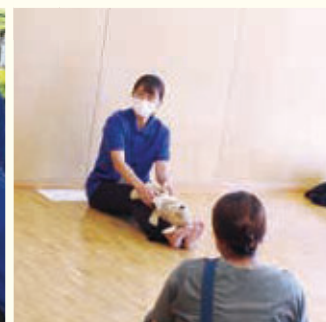
令和5年10月14日に、3年ぶりに、天童コロニー祭りを開催いたしました。天童サポートセンターを開所した令和元年度に初開催し、恒例行事として開催していく予定でしたが新型コロナウイルス感染症の流行や感染拡大を防ぐことから見送ってまいりました。短時間開催、飲食なし、感染予防に努めることなど新たな環境の中で、桜田拠点と同日開催となりました。

地域の方々に事業内容を知っていただく機会として日常の活動紹介や、活動体験ブースとしてスタンプラリーを開催、ふれあい遊びの提案、エクササイズ体験等を通して、親子で過ごすことの楽しさ触れ合うことの楽しさの発信をいたしました。また桜田拠点との合同企画として、無料カレンダー作成、コロニーセンター製造のパンの人気セットの販売と定期購入の案内を行い、笑顔あふれる一日となりました。

(実行委員長 菊地)



## TENDO



- ◆ 菅野 典子さん  
一眼レフカメラを購入したので上手に写真を取れるようになりたい
- ◆ 荒木 哲英さん  
「なんで髪が長いの？」と4歳の姪に聞かれたのでミニ花笠に応募
- ◆ 後藤 亮介さん  
去年はコロナに感染してしまったので、今年は健康に十分に気を付けようと思います
- ◆ 佐藤 勝也さん  
料理のレパートリーを増やし、美味しいお酒を飲みたい。
- ◆ 嶋倉 泰彦さん  
健康に留意し、龍のように力強く、更に時間を大切に。
- ◆ 工藤 京子さん  
大変な年明けでした。健康で平穩な毎日を送りたいです。
- ◆ 山川 龍矢さん  
どんな環境にも対応し、二日を大切にしていきたい。
- ◆ 松田 純子さん  
野菜作り・キャンプ・旅行など、第2の人生思いっきり楽しみます。
- ◆ 舟山めぐみさん  
初心を忘れず日々努力を重ね、充実した一年にしたいです。





桜田南事業所

4年ぶりの開催となった第19回地域交流会。感染症等の不安はありましたが少しずつ地域の方々との交流ができるようになってきたため、規模を縮小して行いました。初の試みとして山形の拠点と天童の拠点同日開催。テーマは【ここから～地域とつながる・かなでるハーモニー】職員も利用者の皆さんも「地域や他事業所の方々との関わりを通し、新しい出会いや想いが生まれて欲しい」との思いをテーマにしました。集客を目的としないため、模擬店の内容変更や広報活動の範囲を限定する等、例年とは違う地域交流会開催になりました。当日はまれにみる晴天とスタッフの協力のお陰で無事開催することができました。ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。大規模に開催できる日が来ることを心から願います。

(実行委員長 赤坂)

3年振りの開催!!

# SAKURADAMINAMI



◆武田明日香さん  
天然酵母のパン作りを頑張ってみな  
と仲良く楽しい年にしたい。

◆M.Dさん  
今年、私は年女なので辰のように力強く  
昇つていける年にします。

◆山口 大貴さん  
今年中に就職したい。体調を整え、挨拶  
や言葉づかいを良くする。

◆佐藤真理奈さん  
幅広い知識や視野を広げるため、読書  
をする習慣を身につける。

◆佐藤 幸樹さん  
健康に気を付けて、1日1日を乗り切  
る。

◆O.Hさん  
こくごさんとうがしたいです。こうが  
いがくしゅうがたのしみです。

◆K.Sさん  
あそばないように、けんかをしない。

◆K.Dさん  
むずかしい勉強がんばる。

◆S.Rさん  
中学校の勉強や部活をがんばる。

◆T.Sさん  
最高学年なので勉強をがんばる。

◆M.Kさん  
がんばります。

◆浅倉めぐみさん  
寝る・食べる笑う・適度な運動で心と身  
体のバランスを整える。

## 仲間たちのこえ



### お汁粉づくりを やってみて

小5

#### H.A

私はお汁粉を食べる前に作業をしました。可愛いコマを作りました。とっても楽しかったです。その後はおもちを焼きました。膨らんだ感じは丸に見えだおもちは丸に見え



ました。焼けたおもちをお汁粉につけて食べました。おいしかったです。来年も参加したいです。



### 未来を見据えて

定着支援

#### 武田 拓樹

私は山形コロニー就労サポートセンターで一般就労に向けて訓練してきました。無事就職し、清掃の仕事をさせて頂いています。以前は足踏みを自分の目標として近づけず、勇気を持って一歩を踏み出すことで就職という目標を達成することができ

きました。不安や自信がなくなってしまうこともありますが、一歩を踏み出すことで今後の未来や自信に繋がります。小さな目標でもいいので、一つずつ着実に達成していけば自分の夢に繋がっていくと思います。皆さんも勇気ある一歩を踏み出してみてはいかがでしょうか。



A型事業部デジタル化事業課

#### 宮舘 英司

仕事を始めた最初のころは、利用者としての立場に慣れずに戸惑うこともありましたが、人と比べて落ち込んだり物覚えの悪さに悲嘆したりもしました。ようやくこの頃、仕事にも慣れ、やりがいも感じられてきたところです。この度、障害者ピアサポート研修の機会を

頂き取り組んでいるところですが、障害の有無に限らず、自分の強みを再発見し、私だからこそのできることを伸ばして、同じような境遇の人達の架け橋になればと考えています。今後この仕事に従事して、人としての研鑽を積み、一社会人として頑張りたいと思います。

### たくさんのご厚意を 頂戴しました



山形県コロニーセンターにホンダ販売労働組合(ホンダディーラーユニオン)ホンダ四輪販売南・東北支部様より充電式刈払機2台、また、山形ヤクルト販売株式会社様より金一封とヤクルト製品のご寄付を賜り、誠にありがとうございました。頂戴した刈払機はファーム事業や環境整備の仕事に活用させていただきます。ヤクルト製品は当日活動終了後に皆でおいしくいただきました。「地域に貢献し、更なる活躍を期待します。」との激励のお言葉に伝えるべく有意義に活用させていただきます。本当にありがとうございました。

20号

2024. 2. February

2024年3月19日発行

■ 山形県コロニー協会  
〒990-2322 山形県山形市桜田南1-19  
TEL 023-641-7335 FAX 023-641-7368  
発行責任者 須貝 壽一

<http://www.yamagata-colony.or.jp/>



### 編集後記

「コロニーやまがた」を最後までご覧いただきありがとうございます。ご感想を。

物事の始まりである「甲」、陽の気が動いて活力旺盛になると言われている「辰の年」、二つが合わさる「甲辰」(ぎのえ) たこの年が始まりました。皆様と一緒に成功という芽を成長させる一年にしていきます。(佐藤佳代子)